

販売店様・加工店様へのお願い

△注意

- ◎棟風本体の切り詰め加工は、漏水の原因につながりますので行わないでください。
- ◎棟風は屋根棟水平部で一番高い場所の中央部へ取付けしてください。
- ◎棟風は適する屋根と適応屋根勾配範囲内で取付け、吸気孔面積は棟風排気孔面積の2倍以上に設定してください。
- ◎シーリング材はシリコン系をご使用ください。

お願い

- ◎施工を始めてから手直しが出来ないよう、事前に調査や打ち合わせを十分に行ってください。特に設計者や工務店様と取付けスペース・工程・搬入実施日・搬入場所・施工実施日等、綿密な打ち合わせをしてください。
- ◎製品の運搬や取付けの際は、キズを付けないように気をつけてください。
- ◎建物に取付ける部材・部品は、建物の柱・間柱・胴差し等に確実に固定してください。
- ◎水平・垂直・直角は、必ず正確に出してください。正確に出ていないと、取付かない場合があります。また、十分な強度が出てない場合もあり大変危険です。注意してください。
- ◎取付けの際、ボルト・ネジ等は、規定本数を確実に締付けて固定してください。建物に孔をあけたりネジを止めたりした場所には、確実にシーリングを施してください。

適応屋根

タイプ	屋根材	屋根の形	取付部分	屋根勾配
角型	金属屋根	切妻及び寄棟	棟の水平部	25/100~50/100
角型片流れ	化粧スレート板屋根	片流れ		

梱包内容

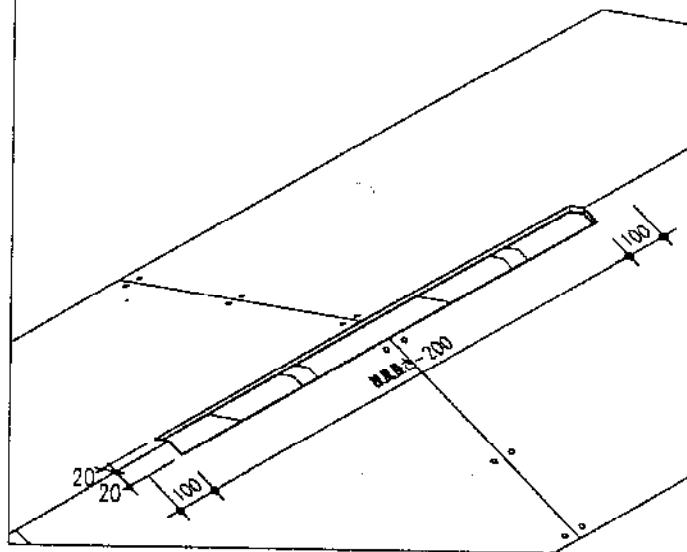
名称	製品記号	長さ	梱包内容
棟風 角型	SRMKG09	L=900	本体(1) シーラー(2) セット部品(1) 施工マニュアル(1)
	SRMKG18	L=1800	本体(1) シーラー(4) セット部品(1) 施工マニュアル(1)
エンド	RAB2AN		本体(2) セット部品(1)
ジョイント	RA3AN		本体(1)

名称	製品記号	長さ	梱包内容
棟風 角型片流れ	SRMKK09	L=900	本体(1) シーラー(2) セット部品(1) 施工マニュアル(1)
	SRMKK18	L=1800	本体(1) シーラー(4) セット部品(1) 施工マニュアル(1)
エンド	SRMKKE		本体(RL各1) セット部品(1)
ジョイント	RB3AN		本体(1)

施工手順 (化粧スレート板屋根・金属屋根)

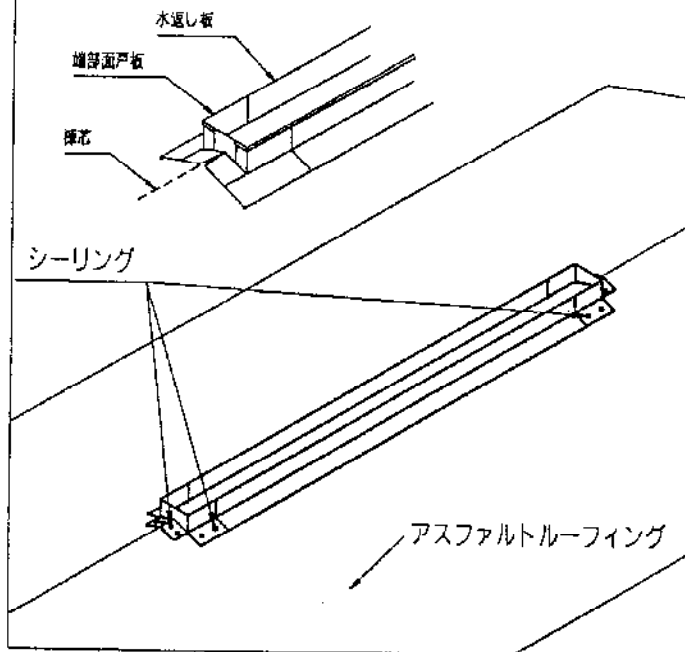
1 通気孔のあけ方

- ①下図のように棟心から片側20mm以上の隙間を設け、野地板を打ち付けます。
- ②アスファルトルーフィング22kg以上を使用して全面貼りします。



3 水返し板と端部面戸板の取付

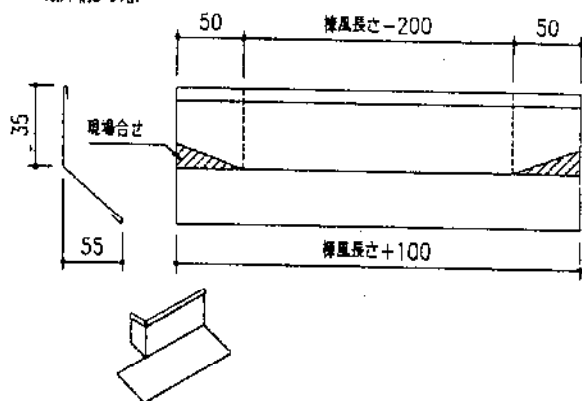
- ①2で製作した水返し板・端部面戸板を、野地板に取付ます。この際、棟の中心線を水系等で決め、それに合せて納めてください。水返し板の芯が出ていないと笠木のセットが狂い、本体の取付に無理が生じたり雨漏れの原因になります。
- ②打ち付けた釘の頭にシーリングを施してください。



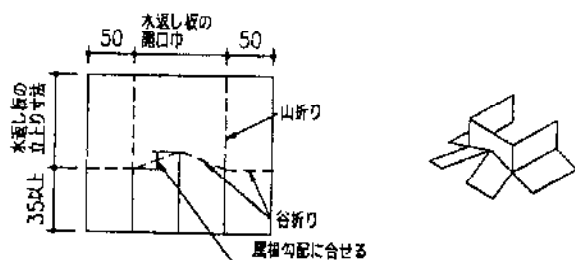
2 水返し板と端部面戸板の製作

- ①下図を参考に、水返し板と端部面戸板を製作します。

●水返し板の加工
(端部納まり用)

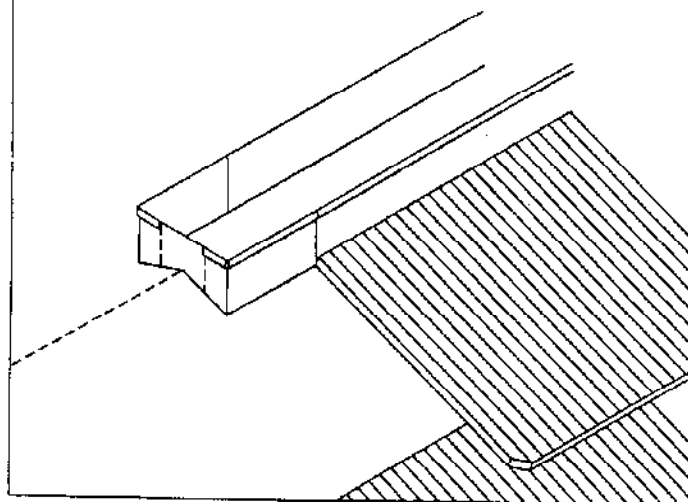


●端部面戸板の加工



4 屋根材の取付

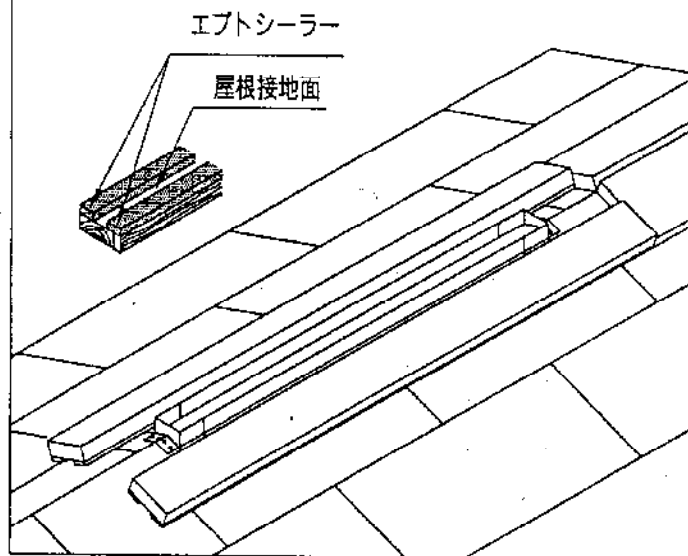
- ①屋根材を寸法に合わせて切断し、従来の施工方法で張り上げます。
- ②屋根材は水返し板及び端部面戸板まで、葺いてください。



施工手順 (化粧スレート板屋根・金属屋根)

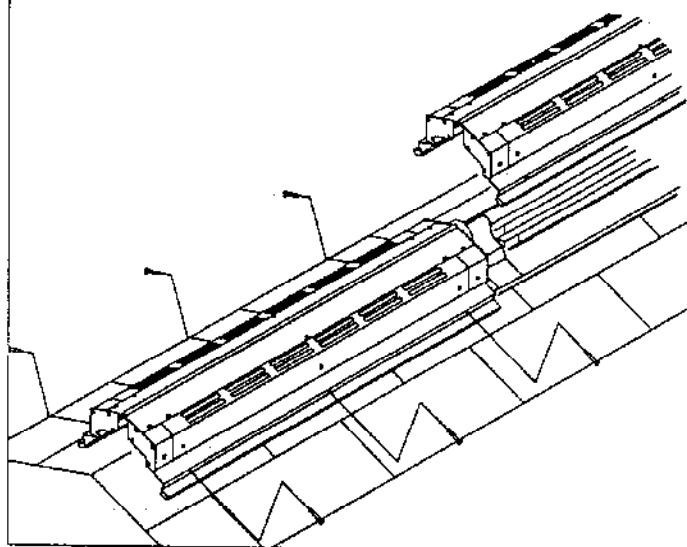
5 笠木の施工

- ①本体を仮置きして笠木(厚さ18mm、巾45mm)の取付け位置を決め墨出しをしておきます。
- ②笠木に付属のエプトシーラーを貼付けます。
(屋根の凸凹による隙間を防止する重要なポイントです。)
- ③打ち付けは、墨出し線に添って正確に行ってください。狂うと本体の取付けに無理が生じます。又、釘はタル木に打ち付けるようにして下さい。
- ④笠木は水返し板の端部より100mmくらい長く設け、棟板とぶつかる様に施工してください。



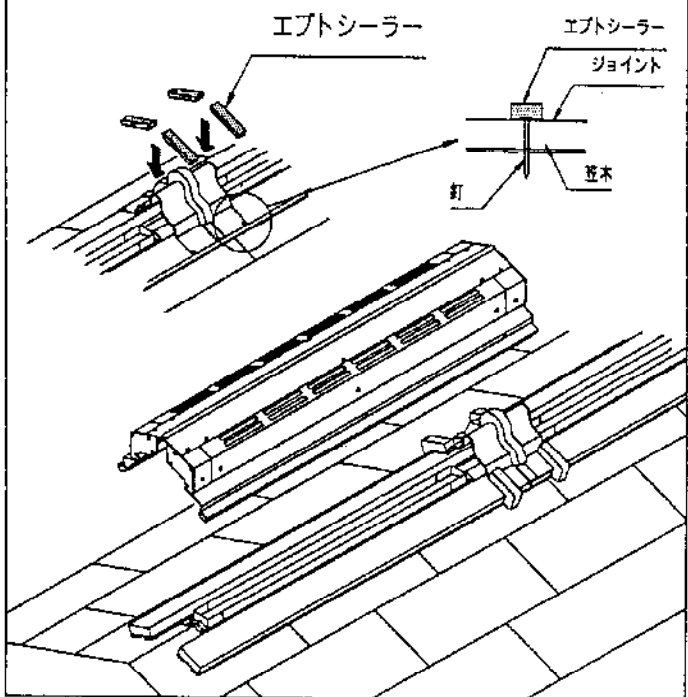
7 棟風本体の施工

- ①棟風本体をジョイント・笠木にピッタリと納まるようセットします。
- ②目地は冬期: 4~5mm, 夏期: 2~4mm程あけて取付けるようにしてください。
(目地は後でシーリングします。)
- ③付属のステンレス釘で笠木に打ち付け、固定してください。



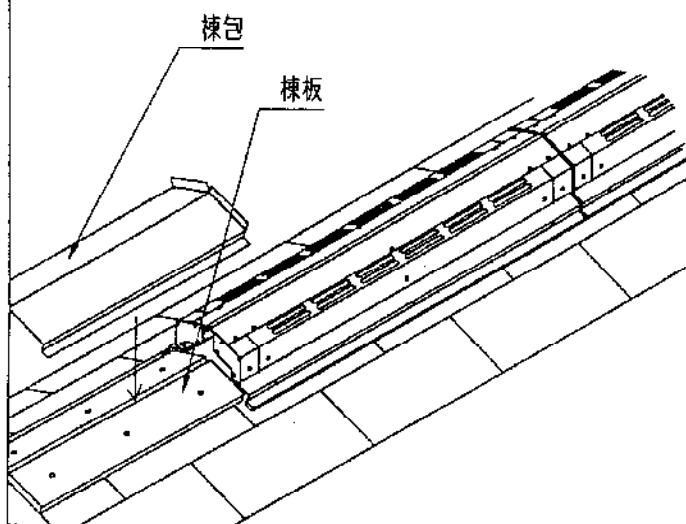
6 ジョイントの施工

- ①2本以上取付ける場合はあらかじめ本体を仮置きしてジョイント部の位置を出し、ジョイントの中心が棟風本体の継ぎ目にくるように笠木に釘止めします。
- ②ジョイントを止める釘の位置にエプトシーラー(笠木に取付けた残り)を笠木の下まで施してください。

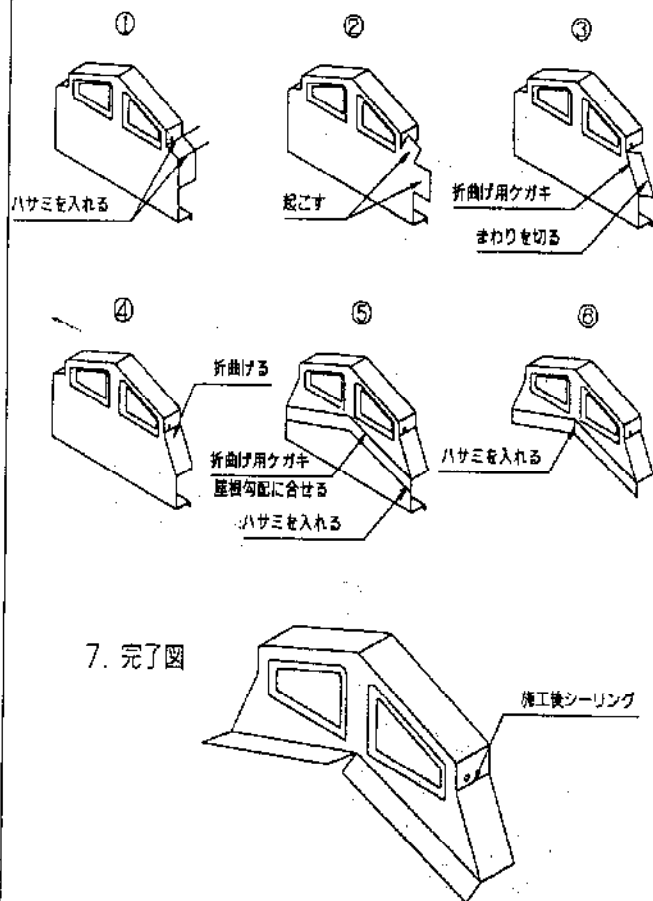


8 棟包の取付け

- ①棟包端部を立ち上げ、棟風本体に突き当たる様に取付けます。

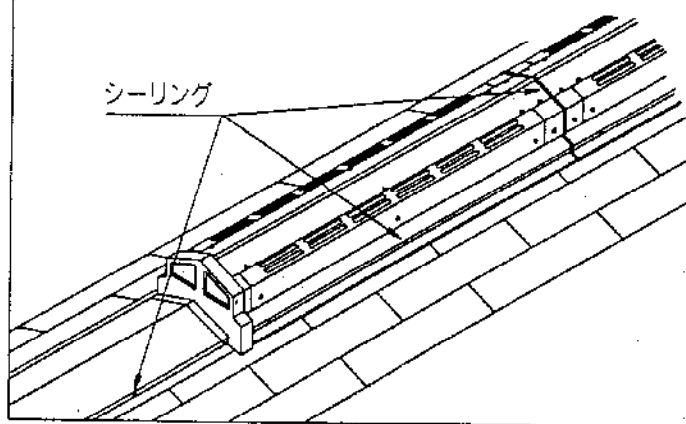


9 エンドキャップの加工方法



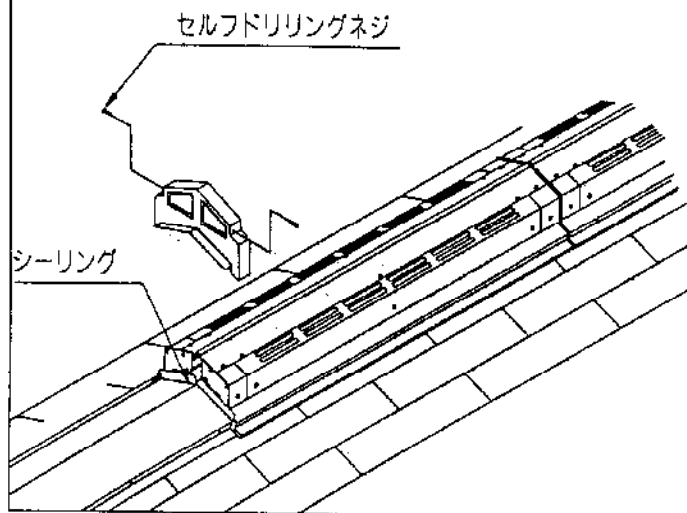
11 シーリング

①全て固定し終わった後で、棟包とエンドキャップの間・ジョイント部・釘の頭等雨漏りの無いようシーリングを施して完成です。(強風雨地方では棟風本体と屋根材の隙間にもシーリングを施してください。)



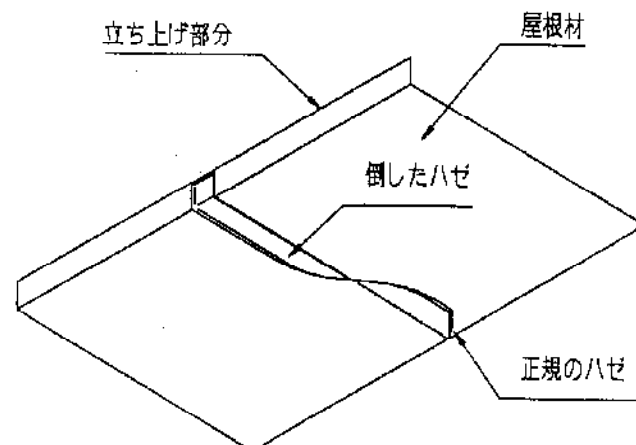
10 エンドキャップの施工

- ①棟風本体の端部にシーラーを貼り、キャップを取付けます。
- ②エンドキャップは隙間なく納まるよう必要に応じて加工してください。加工方法は「エンドキャップの加工方法」を参考にしてください。
- ③エンドキャップの横に固定用の穴が明いていますので、ドリルで本体に穴を明けブラインドリベット又はセルフドリリングネジ等で固定してください。



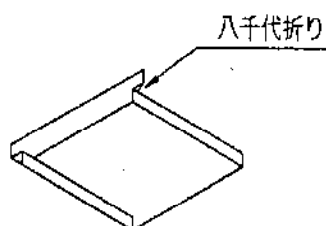
●ありがけぶき・立ちひらきぶき

- ①図のようにハゼを倒し、その上から笠木を打ち付けてください。立ち上げ部は水返し板として利用します。
- ②以降の施工はカラートタン平ぶきと同じ要領で行ってください。



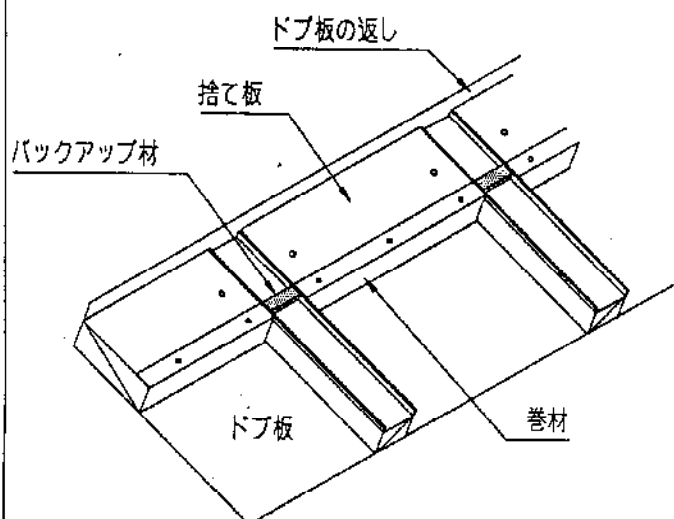
施工手順（金属屋根一瓦棒ぶき）

①ドブ板を八千代折りにして立ち上げます。



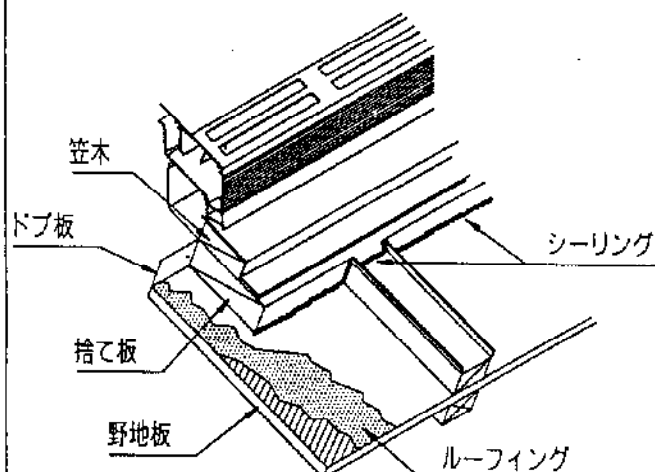
②図のように瓦棒と瓦棒の間のドブ板に、瓦棒の高さと同じ厚さの捨て板を打ち付けてください。（取付け前にシーリング処理を行ってください。）

③この時捨て板に屋根板と同じ材質・色調の巻材で巻いておくと、仕上がりがきれいです。



④笠木に付属のエプトシーラーを貼付け、タル木に充分届く長さの釘で打ち付けます。（この時タル木は、瓦棒のある部分がありませんので充分注意してください。）

⑤瓦棒のキャップ部の溝はバックアップ材を詰めておき、棟風本体を取付けた後シーリングをして雨漏れを防いでください。

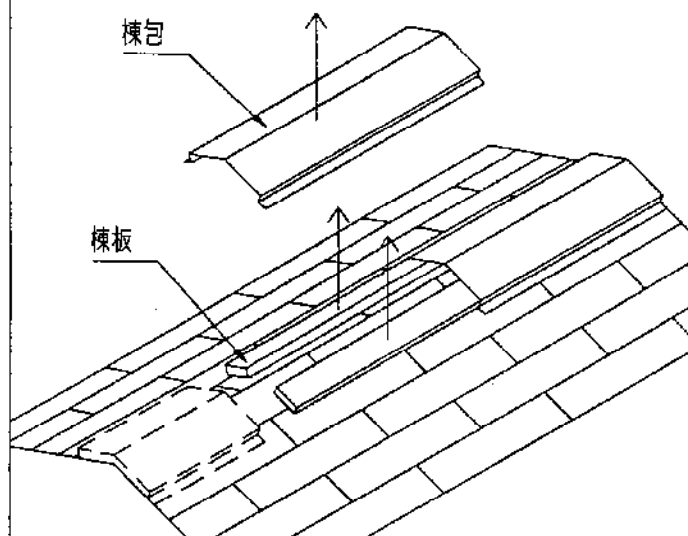


（改装）

棟包・棟板の取り外し

①棟風取付部の棟包及び棟板を取り外します。

②施工時には、屋根材を破損しないように充分気をつけてください。以降の作業も同じです。



屋根材の加工

化粧スレート板屋根の場合

①取付部の化粧スレート板を取り外してください。

⇒以降は、「施工手順（化粧スレート板・金属屋根）1 通気孔のあけ方」へ

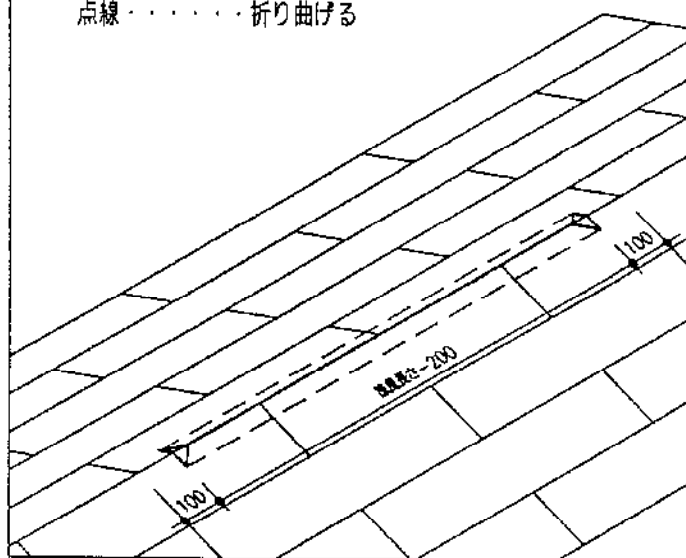
金属屋根の場合

①既存の屋根材を図のようにハサミをいれます。

②点線の所までトタンを起こして水返し板とします。

③本体取付け長さよりあらかじめ両端100mmずつ短い寸法で、切り込むように注意してください。

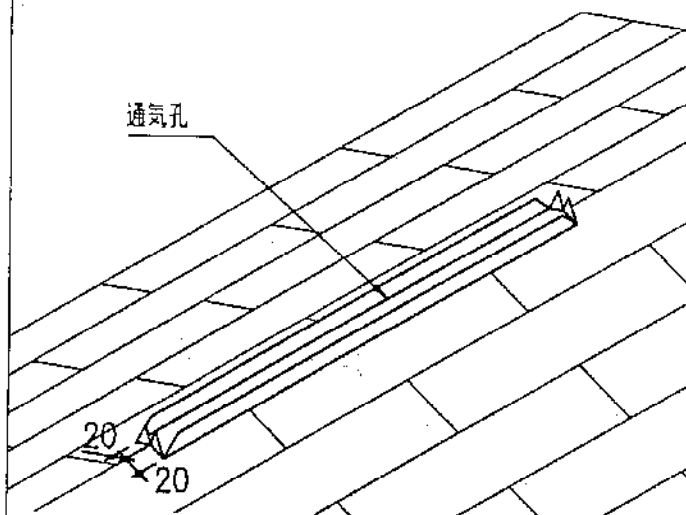
注 太線・・・・・・ハサミをいれる
点線・・・・・・折り曲げる



通気孔のあけ方

金属屋根の場合

- ①既存の野地板に棟から片側20mm以上の隙間を電気丸ノコで開けてください。

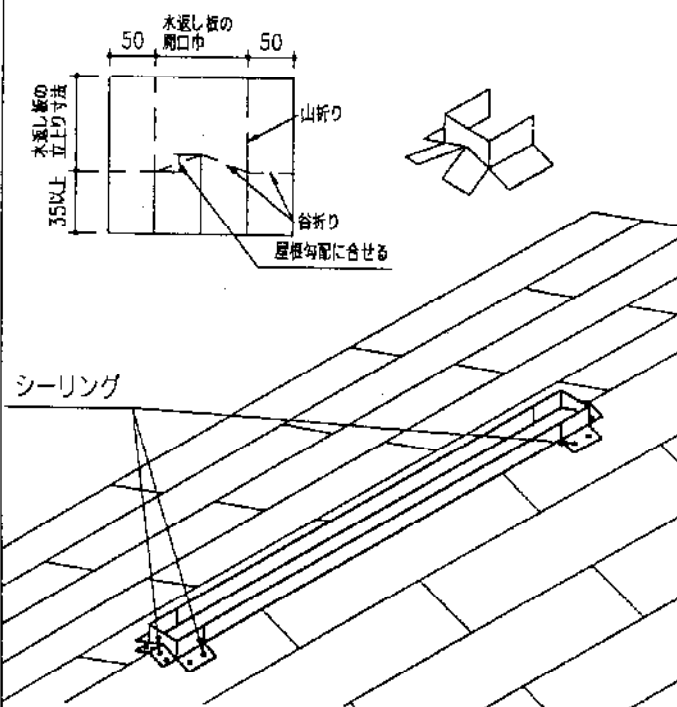


端部面戸板の施工

金属屋根の場合

- ①下図のように加工した端部面戸板を、図のように施工してください。
②打ち付けた釘の頭にシーリングを施してください。

●端部面戸板の加工

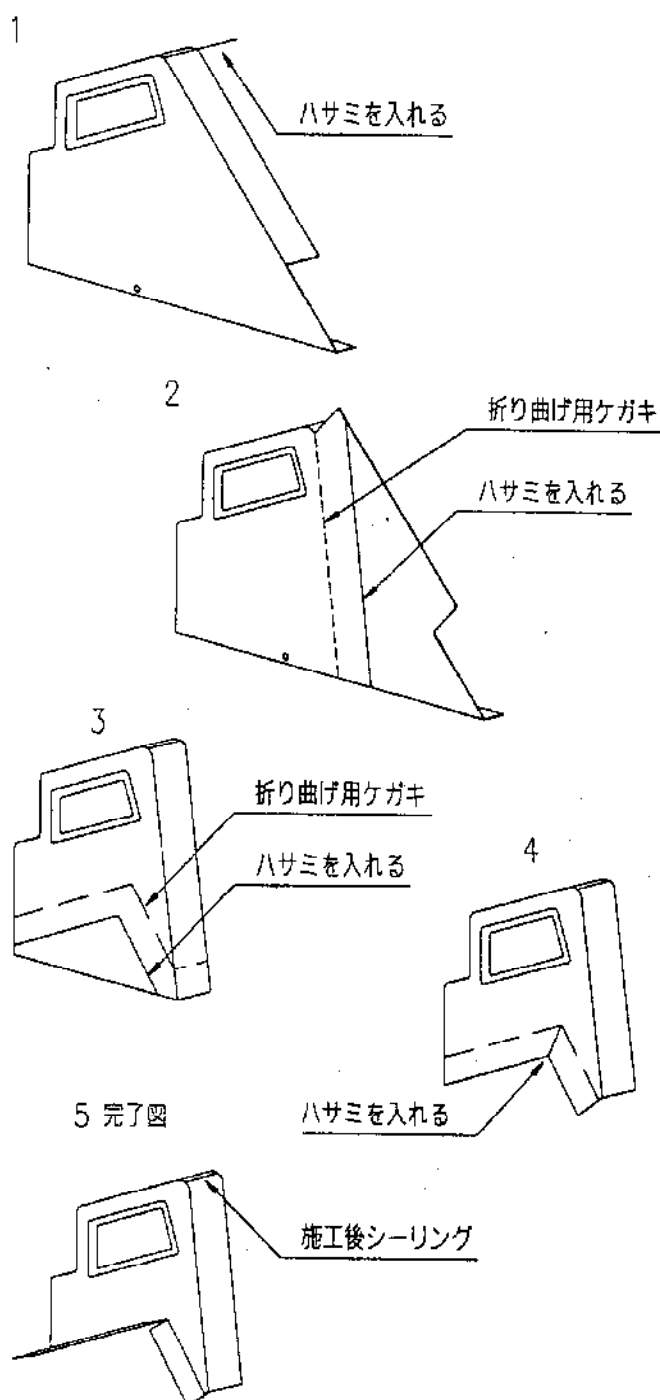


◇以降は、「施工手順(化粧スレート板屋根・金属屋根) 5 笠木の施工」へ

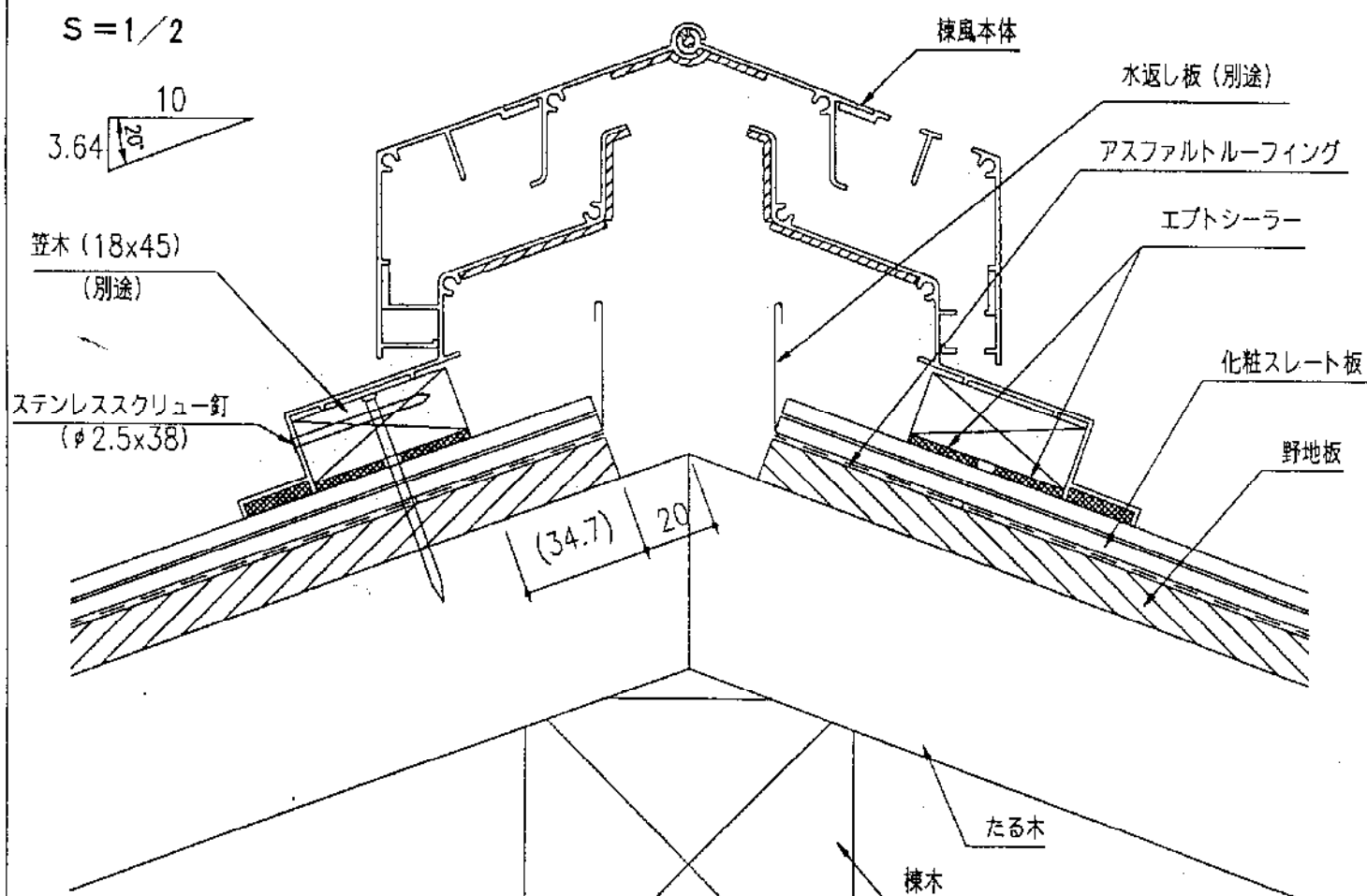
●施工のポイント

- ・野地板の打ち付け
棟木から20mm以上の隙間をあけてください。
家のタイプにより棟木の取り合いが異なる場合には、本体を仮置きして通気孔の位置を確認してください。
 - ・水返し板の打ち付け
化粧スレート板屋根・瓦葺屋根には金属板を折り曲げ加工して納めてください。
金属屋根の場合は屋根を立上げて水返しにします。
 - ・エンドキャップの施工
左端用と右端用がありますので注意してください。
- ◇以降は角型タイプと同じです。

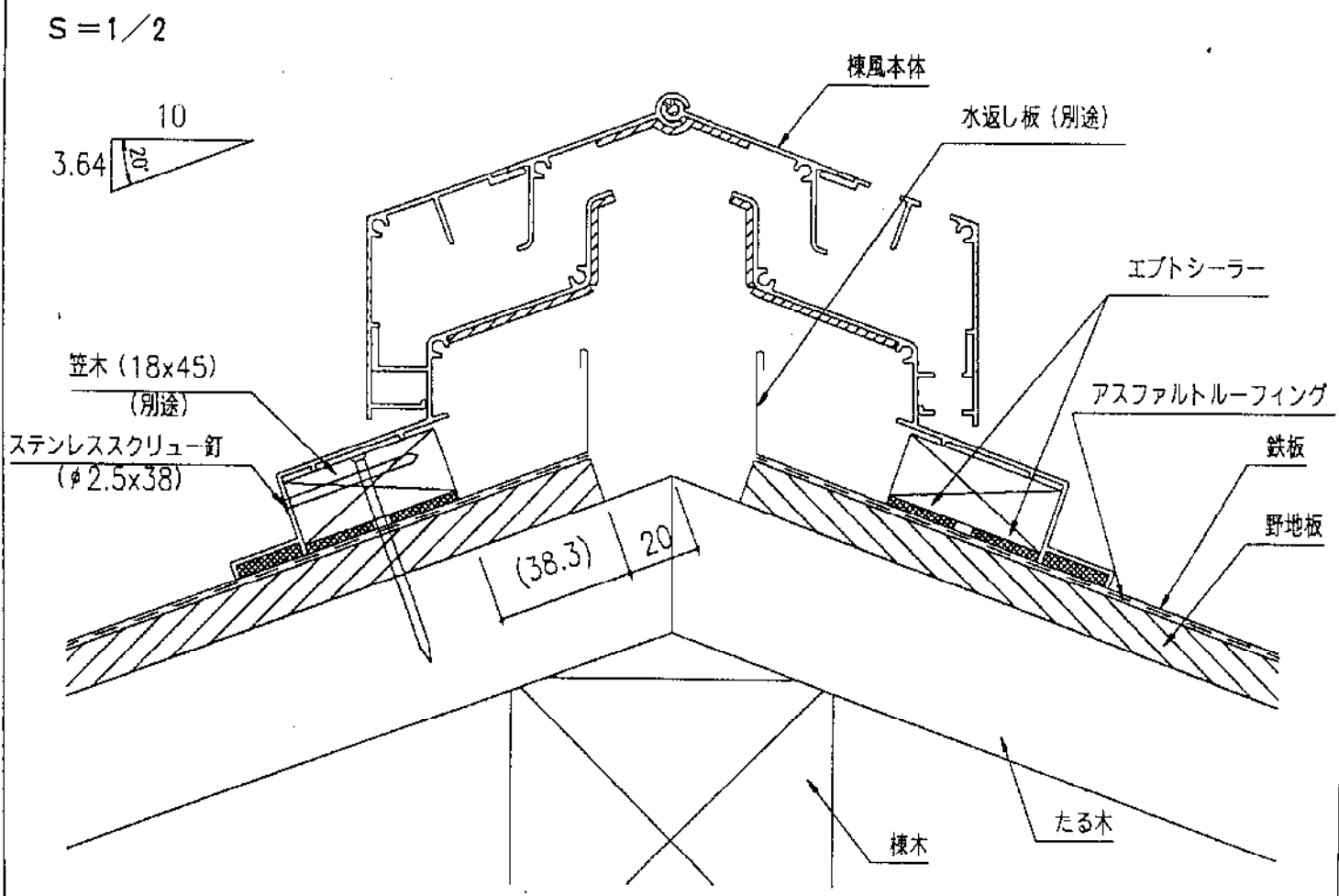
●エンドキャップの加工方法

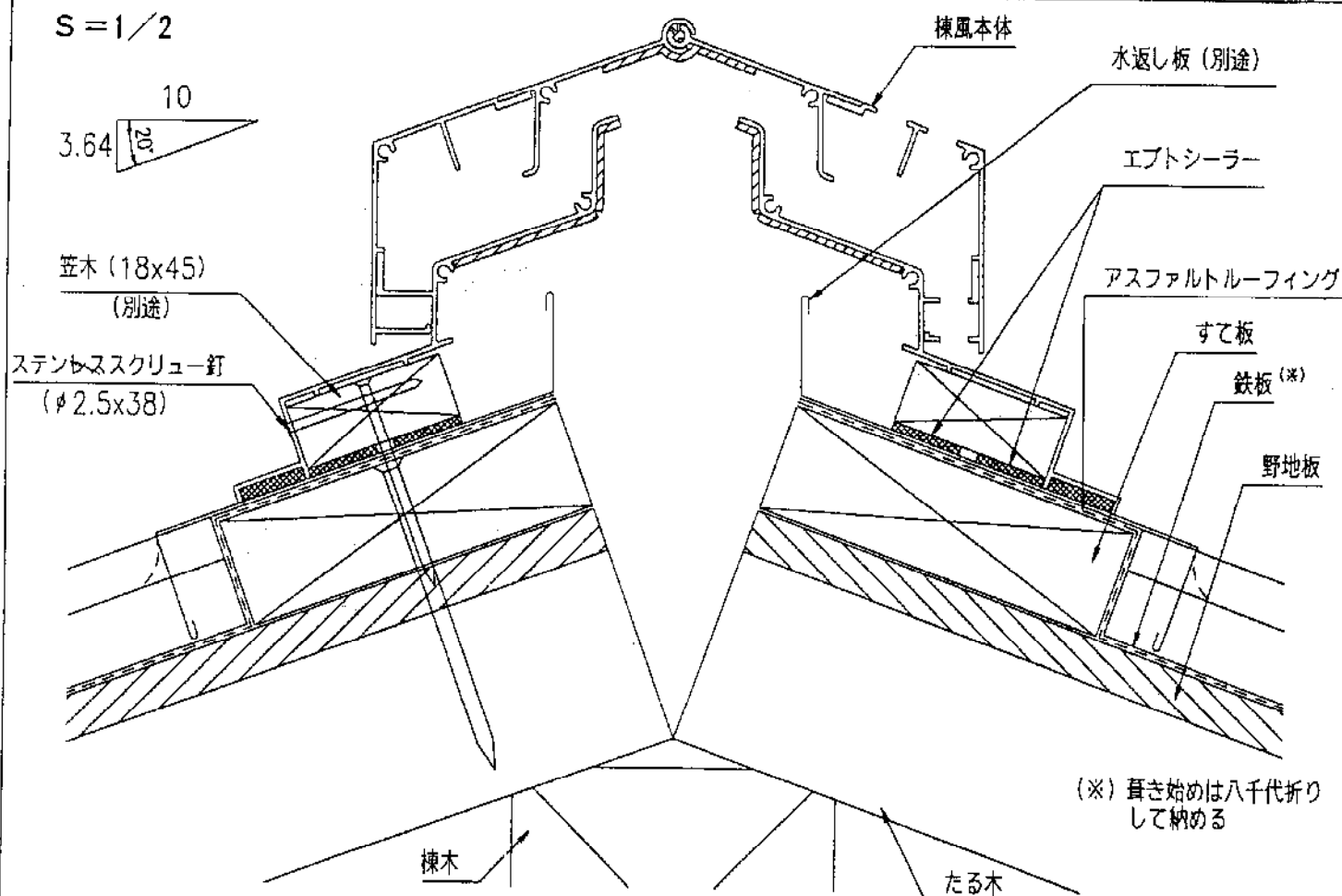


基本納まり図 (角型—化粧スレート板)



基本納まり図 (角型—金属屋根・平ぶき)





基本納まり図 (角型片流れ—化粧スレート板)

